



# 大きくなった子どもたち



**発行**  
 2015年4月1日 第101号  
 社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館  
 発行人/ 湧井 規子  
 編集人/ 佐藤 明裕  
 〒457-0805  
 名古屋南区三吉町6丁目17番地  
 TEL/052-612-3370 (本部)  
 FAX/052-611-9085  
 URL/http://shakaikan.com  
 E-mail/honbu@shakaikan.com

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」

(マタイによる福音書 7章12節)

## 平和の目になる「社会福祉」

### 赤ちゃんの目がモノをいう

地域の文房具店で、毛並みの良い大きな猫に出会った。あまりにいい感じをかもし出してしまったので、彼女の目を覗き込んだ。目の中は、切れ味のよい黒い瞳の周りが透明感のある山吹色だった。これには訳がある。猫は穏やかなペットとなっているが、動物。動物は元来、生きるか死ぬかのすさまじい生存競争・闘争の場に立たされている。この闘いには、視線が際立たない方が有利なんだそう。そのために、動物の瞳の周りはみんな色つきだ。

ところが、人間の赤ちゃんのみが瞳の周りが真っ白い。やはり、理由があった。真っ白い白目であるが故に、目はぼつちりと際立ちかわいらしい赤ちゃん。その眼により、大人の注目を集める。研究者によれば、白目があることで私にかかわってほしい、私を育ててと意思表示している、赤ちゃんは他者を信頼しているのだ。なるほど、その際立つて輝く眼をコミュニケーションの手段として使っている。人間は、もともと相互に信頼し合い、協力し連帯する仲間として創造された存在、他の哺乳類とは大きく異なる存在だといえるのである。

**「本性の天使」を信じられるのか**  
 先日こんな新聞記事のタイトルが目飛び込んできた。「暴力の人類史」という本の紹介だった。  
 この著者は、「旧約聖書の昔から、モンゴル帝国の世界征服、中世の暗黒時代、そして二十世紀の第二次世界大戦に至る殺戮の歴史を振り返り、私たちは、意外にも人類史七〇〇〇年の中で、最も平和な時代に暮らしている。……人間には暴力を誘発する「内なる悪魔」と暴力を抑制する「善なる天使」があり、かろうじて天使が悪魔を打ち負かすことで平和を獲得してきた」と述べている。そして、本誌を紹介する島田雅彦氏は、「いつの時代にあっても先祖返りし、大虐殺や無謀な戦争、隣

人への暴力に加担してしまいが、自己抑制や権利獲得の営為を積み重ねることにより、確実にそのリスクを軽減するように社会を変えてきた。このこと自体、第三次世界大戦前夜に暮らしている私たちの不安を幾分和らげてくれる。……暴力抑止のための戦いをさぼることはできない。敵は目に見える他者というより、自分自身の中に潜んでいて、その内なる悪魔を制御する限りにおいてかろうじて文明的でいられるのである。」と語る。

人間の目、瞳の周りが白い。赤ちゃんは、真っ白い白目を持って生まれてくるのである。この著者の分析に基づけば、真っ白い理由は、「人間の本性は善なる天使」だからということだ。それにしても、自らも「内なる悪魔」と「善なる天使」の戦いの日々は続く。未来に希望を抱くことに疲れそうになる私たちに、歴史的な視野で雄々しく勇気を持って行動するようにと、力を与えてくれる一文となった。

**「今」を生きる役割**  
 「名古屋キリスト教社会館」は、伊勢湾台風災害時のキリスト教関係者による救援活動から生み出された社会福祉事業所である。今年、五十五周年を迎える。創立以来、たくさんの方々が真摯に働き、たくさんの方々にであり、ふれあい、教えられた。たくさんの方々の「愛情」「友情」によるご支援をいただいた社会館。その日々の積み重ねにより、「今」がある。

日本の社会福祉は、戦後から七十年、世界の潮流の中で闘いがあり「権利としての社会福祉」を築くに至った。私たちは、いつも新たに生まれてくる「困難」や「苦しみ・悲しみ」のある所に立ち、平和的に共に生きる「社会福祉」を創造する役割を担っている。皆様とつながり、努力を続けたい。

名古屋キリスト教社会館  
 理事長 湧井 規子

## 事業所紹介

### 発達センター部

- 南部地域療育センターそよ風 愛育診療所
- デイサービス A C T
- デイサービス みどりそよ風 障害児相談支援事業所そよ風
- 発達センターあつた
- デイサービスあつた
- 発達センターちよだ
- デイサービスちよだ
- 障害児相談支援事業所ちよだ
- 東部地域療育センターぽけっと
- あいの風診療所
- 障害児相談支援事業所ぽけっと

### 支援センター部

- 活動センターねーぶる
- ヘルパーステーションぽけっと
- ショートステイぽけっと
- ぽけっと相談支援事業所
- ホーム社会館
- のどか・うらら・天歩
- しゃかいかん・いっほ
- 社会館障害者基幹相談支援センター

### コミュニティ ケアセンター部

- 菜の花保育園
- 子育て支援センターなのはな
- 名古屋のびのび
- 子育てサポート事業南支部
- みどり菜の花保育園
- 名南ユースセンター A C T
- ちどり児童会
- デイサービス友
- デイサービス愛
- 社会館居宅介護支援事業所
- 配食サービスゆうの里

### 名古屋キリスト教社会館の使命

名古屋キリスト教社会館は、創立の精神に基づき、次の使命を担います。

1. すべての人々がかけがえのない存在として人権が保障され、自立した人間として成長していける社会を築くことをめざします。
2. 隣人とのふれあい、そだちあいを大切にし、ともに地域の課題を担うことを通して福祉の輪が広がるように努めます。
3. 世界の人々との交わりを通して、福祉社会の実現のために働きます。

いつの時代も、人は平和を希求してきました。しかし、現代においても戦いの火は消えることはありません。そればかりか昨今は宗教の名のもとに過激なテロ行為が全世界で繰り返され、憎しみの連鎖はとどまるところを知りません。一見平和にみえる日本においても驚くような事件が次から次へと起こっています。

どうして人は憎み争うのでしょうか。そもそも人とは何者なのでしょうか。聖書はその最初の創世記において、人が神に創造された者であると明確に宣言しています。

創世記一章に、人は「神をかたどり、神に似せてつくられた」存在として、他の被造物を従わせ、支配するという務めを与えられました。ここでは明らかに人との関係が記されています。ところが二章においては、人が「土のちり」で形づくられ、神によって命の息を吹き入れられた「存在」であり、神は人をエデンの園に住まわせ、そこを耕し、守るものとされたと記されています。一章の「従わせ、支配する」という言葉と、二章の「耕し、守る」という言葉では随分イメージが違ってきます。「耕す」という語には「仕える」という意味があり、元の言葉には「奴隷のように仕える」という意味があるそうです。ともすれば私たち人間は、前者の「従わせ、支配する」ことのみを人間の務めととらえ、「耕す（仕える）、守る」ことをなおざりにしてきた

のではないのでしょうか。確かに神をかたどり、神に似せてつくられたということは、人がかけがえない素晴らしい存在であることを示しています。ところが神のような力を得て、他者を支配したい欲望が私たちの心を支配するようになってしまいました。その結果、私たちは互いに憎み争い、自然への誤った支配を行うようになってしまったのです。

このように神の創造の目的か



## 「神の創造と平和」

創世記1章27、28節・2章15節

ります。この方の生き方なら、私たちが仕える者として、自然の声なき声を、隣人の声にならない声をしっかりと聞くものとならせていただきます。

(チャプレン 杉本美由紀)

聖書 創世記

一章二十七節二十八節

神はご自分にかたどって人を創造された。

神にかたどって創造された。男と女を創造された。

神は彼らを祝福して言われた。

「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。

海の魚、空の鳥、地の土を這う生き物すべてを支配せよ。」

二章十五節

主なる神は人を連れてきて、エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようにされた。

ら離れてしまった私たちを救うために、神の独り子イエス・キリストはまさに奴隷のように仕えるためにこの世に遣わされました。この方の十字架と復活という出来事が、唯一、神と人との関係を正すことができるのです。すなわち神に祝福された創造の姿へと私たちを立ち帰らせるのです。

平和に生きること、それは自ら平和となつてくださった主イエスを見上げることからはじま

# 二〇一五年度 法人全体基本方針

三月二四日理事、評議員会が、開催されました。法人全体及び各事業所基本方針が確認されましたのでお伝えいたします。

テーマ

日本国憲法に基づく、  
権利としての社会福祉を追求します。

(重点課題)

一、五十五年間の私たちの社会福祉実践を土台に、新しい理事・評議員体制、新しい職員体制の中で合意形成に尽力し、名古屋キリスト教社会館の「使命」に基づいた事業経営を展開します。

二、「生存権」(憲法二五条)人間らしい最低限の生活を国に保障してもらう権利、「平等権」(憲法一四一条)差別されない権利、「生命・自由・幸福追求権」(憲法一三条)個人の尊重やプライバシーの権利・健康権・平和的生存権・自己決定権などを含む)を保障することを基軸にして、社会福祉事業を展開します。

三、地域の子どもから高齢者まで、多世代が交流できる福祉交流館をめざした「西館建設」を地域から期待されるようにすすめます。

(方針)  
一、創立五十五周年を記念して、「公開講座」及び「全体職員会」を開催し、私たちが大事にしたい土台を確認します。  
二、各事業所における「私たちの実践」を大事に評価し、学び合い、育ちあいます。  
三、すべての職員の社会福祉施設職員としての成長を支えます。

四、職員一人ひとりの主体的参加による仕事づくりと働きやすい環境づくりをめざして、名古屋キリスト教社会館の組織機構改善を検討し、管理職の役割・現場リーダーの

役割、各会議等の役割が充実するように、工夫・改善します。

五、健全な法人経営をめざして、監事監査等を通し事業分析・経営分析をすすめます。同時に、法人事務局業務の充実をはかります。

六、支援センター部の将来計画づくり、発達センターあつた及び発達センターちよだの将来計画づくり(老朽園舎の改築計画)の課題を視野に入れて運営を創造します。

七、キリスト教精神と現場実践をつなぐチャプレン(現場に在籍する牧師職)業務のあり方をさらに検討し、運営を創造します。

八、「名古屋キリスト教社会館」で働きたい、「社会福祉」で働きたいという希望を持つ人たちが増えるように、人材確保対策を検討し、運営を改善します。

九、社会福祉法人として、すでに実践している「地域公益活動」を明らかにしつつ、地域や各事業所に顕在化し始めている「新たな福祉ニーズ」に対して、どのようにかわるかを検討します。

十、理事・評議員の方々に、各委員会や行事・研修会等への参加、ご支援、ご指導をいただきながら、社会福祉事業のあり方が深まる運営をすすめます。

一一、「名古屋キリスト教社会館後援会」との連携を大事にします。

一二、「社会福祉」の質を向上するために、当事者・地域・行政との信頼関係づくり、顔と顔がつながるネットワークづくり、協働に努力します。

一三、菜の花保育園に続いて、第三者評価機関による「第三者評価」を受ける準備をすすめます。

一四、二〇一一年三月一日の東日本大震災から浮上している福祉問題をとらえ、社会福祉施設としてなすべき支援活動を継続し、協働します。

一五、伊勢湾台風の救援活動から生まれた社会福祉施設として、南区・地域と連携しながら、防災対策活動を行います。

一六、国際交流委員会のもとで、ケニア・マゴンスクールとの交流・学び・支援をすすめます。  
一七、「憲法九条」を守る取り組みに協働します。  
一八、原発に頼らない社会をめざす取り組みに協働します。

(文責 湧井 規子)

「児童発達支援」のこれから

厚生労働省は、昨年七月に「障害児支援の在り方に関する検討会」の報告書をまとめた。そのポイントは①同世代の子どもと同様に暮らせるように必要な条件整備を行うこと②児童発達支援センター（そよ風、あつた、ちよだ、ぼけつと等）は専門的な機能を出前することの二点です。また、年齢等に応じた切れ目のない支援（縦）と地域の関連諸機関（横）との連携が必要であるとしています。つまり、通ってくる子どもたちに対する療育だけでなく、入園前・退園後も地域で安心して暮らせるように家族を支えていくことが重要だと言っています。これは、まさに私たちが目指してきたことで、日本中で同じように支援が行われるならうれしいことです。しかし職員に高度な専門性を求めても、今の制度は子どものお出欠に左右される出来高払いであり、職員が働き続ける賃金を保障するには不十分な報酬体系です。また報告書では、児童発達支援センターの役割は、地域の保育園・幼稚園・児童発達支援事業所等の「後方支援」に重きを置いています。日々の療育実践を豊かにしていくための方向性や施策の在り方について示されていないという事は、大きな問題です。

（東部地域療育センターぼけつと

加藤 淳）

～日々の療育実践こそが、発達を保障する～



東部地域療育センターぼけつと



今年度オープンした東部地域療育センターぼけつとは、普段は運動発達に注目したクラス編成で保育を行っています。二歳児が登園しない

「ぼくも一緒にあそびたいよー！」

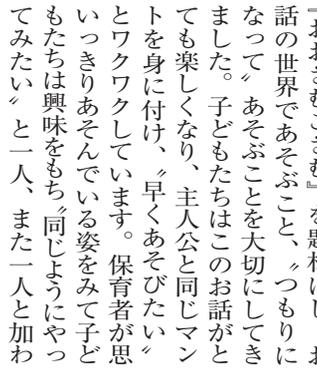
木曜日は、同じ年齢の子どもたちのグループ編成で保育をしてきました。いちごグループは四・五歳の子どもたちがいます。四歳児のYくんは、他のクラスの同年齢の子が楽しんでるのをじっと注目したり、嬉しそうに笑ったり、自分から動くことも増えてきました。Yくんが同じ年齢の子たちとの関わりが嬉しかったり、「楽しい！」という気持ちや響きあうのを感じました。また、お友だちはYくんのバギーを押すのが嬉しいし、Yくんも初めは緊張していましたが、少しずつ慣れてきて笑顔がでてきました。グループ保育を通して、障害の違いがあっても、同じ年齢の子ども同士の間で、嬉しげな声や、子どもたちの経験が一層広がり、楽しい・響きあうのを感じました。今後のぼけつとでの保育につなげていきたいと思えます。

（丹羽 悠子）

TEL 782-0770  
FAX 782-0771



発達センターちよだ



発達センターちよだでは、一年間いっぱいあそび、大きくなり、成長した姿を保護者とともにお祝いする「えがおまつり」という行事をとりこんでいます。ちようちよ・たんぼぼくみは新入児・進級児クラスで、春から保育者とあそぶことの楽しさをたっぷり感じてきました。秋の家族うんどう会で築いた保育者との関係を土台にし、えがおまつりではお友だちとあそぶことの嬉しさ・楽しさを感じて欲しいと願ってました。

お友だちとあそぶことの楽しさ

り、いつのまにかみんなが集まり笑いっぱいであそぶようになりまし。毎日の生活やあそびの中で保育者が間に入り一緒にあそびこむことでお友だち同士が意識し合い、一緒に楽しいねという気持ちや広がったのだと思います。子ども同士で顔を見合せて笑ったり、手を繋いであそんだり、追いかけたり。お友だちと一緒にいい！という気持ちが高まり、この一年間で大きくなった子どもたちの成長をとても嬉しく感じました。

（鈴木 絵莉）

TEL 792-7277  
FAX 792-7258



南部地域療育センターそよ風

つばめ・にじぐみは、肢体不自由や重複障がいのある子どもたちのクラスです。身体動きには制約もありますが、視線や声、表情などで「これはいい、いやだな」「もつとやりたい」と要求を表現しています。通園に通い、家庭と共に日々の健康管理などを丁寧につまみ重ねてくる中で、お母さんも保育者も子どもも「安静にした方がよいとき」「これくらいなら大丈夫」など共に捉える視点や周りの働きかけを受け止める力が育つてくると思います。健康面の安定や捉えがあるからこそ、生活やあそびに身体も心も向けられ、集団の中で自分を感じ、もつとやりたい気持ちが膨らんでいる子どもたちの姿へと繋がってきています。

スイミー みんなの力をあわせよう！



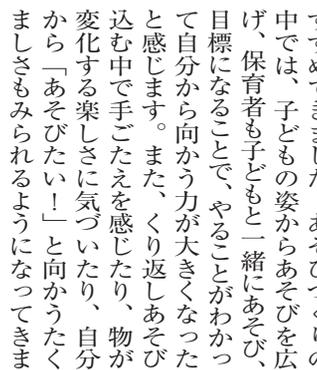
当日は、七人そろって一人ひとりが力を出して、怖いけれどお友だちがいるから…とみんなの力を合わせダイナミックな揺さぶりで大きな怖い魚を追いつくことが出来ました。それぞれの子どもたちが生き生きと輝いている姿に、内面の育ちを感じました。

（濱田 美穂）

TEL 612-3357  
FAX 612-3411



発達センターあつた



一年のまとめの行事でもある「大きくなったみんなのついで」に、親御さんと一緒に向かってきました。子どもの姿を親御さんに伝えるところでは、子どものできるようになつた姿だけでなく、あそびに向かう中で揺れ動く内面の育ちや、保育者や友だちと一緒にうれいしい子どもの姿を大切にしました。また、職員みんなで「あそび」の原点に立ち返り、子どもを「楽しい！」「もつとやりたい！」と自分からあそびに向かうようなあそびづくり、集団づくりをすすめてきました。あそびづくりの中では、子どもの姿からあそびを広げ、保育者も子どもと一緒にあそび、目標になることで、やるこがわかって自分から向かう力が大きくなったと感じます。また、くり返しあそび込む中で手ごたえを感じたり、物が変化する楽しさに気づいたり、自分から「あそびたい！」と向かうたくましさもみられるようになってきました。

あそびのついでに楽しもうね！ ～大きくなったみんなのついでを通じ～

した。一人ひとりが主人公になり、夢中になってあそび込んでくれたと思います。これからも、子どもたちがあそびの楽しさを通して、つながり合うこと、や、人と一緒に心地よさをいっばい感じられるよう、職員みんなで療育づくりをしていきたいです。

（加藤 謙一）

TEL 681-1167  
FAX 681-1178

マゴスクール火災復興支援イベント  
**スラム街に生きる**  
**500人の子どもたちのビッグママ**  
**—アフリカからいのちの輝きを伝える—**

日時：4月25日(土) 13:30開場 14:00開演  
 場所：日本ガイシフォーラム、レセプションホール  
 内容：◎講演：リリアン・ワガラ氏 早川千晶氏  
 ◎ケニアの風ミニコンサート  
 協力券：1,000円  
 ※収益はマゴスクールの運営資金に充てられます。  
 主催：名古屋キリスト教社会館後援会・国際交流委員会

日本キリスト教社会福祉学会  
**第56回大会案内**

テーマ キリスト教社会福祉の使命～目の前のいのちに向かい合う  
 と き 2015年6月26日(金) 午前10時～27日(土) 午後12時30分  
 と ころ 26日(金) 金城学院大学  
 27日(土) 日本キリスト教団名古屋中央教会

主な内容  
 1日目/基調講演 柏木哲夫氏(淀川キリスト教病院理事長)  
 シンポジウム  
 研究発表・実践報告分科会  
 2日目/記念講演 永岡正己氏(日本福祉大学)  
 パネルディスカッション  
 主催 日本キリスト教社会福祉学会 大会事務局 名古屋キリスト教社会館

イースター早天礼拝の  
**ご案内**

日時：2015年4月5日(日)  
 場所：日本キリスト教団 名古屋教会  
 名古屋市中区丸の内3-4-5  
 説教者：杉本美由紀牧師  
 (社会福祉法人  
 名古屋キリスト教社会館チャプレン)  
 献金使途：東北ヘルプへの活動支援



お手軽  
**お料理教室**

**野菜あんかけ焼きそば**

子どもたちも大好きメニューです。たっぷり野菜も麺と一緒にモリモリ食べられる♪春野菜で彩りよくどうぞ。



- 【材料(1人分)】
- ・白菜……………22g
  - ・キャベツ……………22g
  - ・玉ねぎ……………12g
  - ・しょうゆ……………小さじ1
  - ・焼きそば……………100g
  - ・豚バラ肉……………20g
  - ・にんじん……………12g
  - ・油……………0.5g
  - ・片栗粉……………少々
  - ・たけのこ……………12g
  - ・きくらげ……………0.5g
  - ・出し汁……………1カップ

【作り方】

- ①たけのこ、白菜、キャベツを短冊切り、玉ねぎ、きくらげをせん切りにする。えんどうをさっと下ゆでしておく。
  - ②小鍋に油を温め、豚バラ肉と①を炒める。
  - ③出し汁と水をかぶるくらい入れ、コンソメを入れて野菜に火を通す。
  - ④醤油で味付けをして、水溶き片栗粉でとろみをつける。
  - ⑤焼きそばを、油で炒めて、お皿に盛り付ける。
  - ⑥焼きそばの上から④をかけて、えんどうを盛り付ける。
- 【応用ポイント】  
 焼きそばを少し多めの油でしっかり焼くとパリパリと香ばしく、ちがった食感が楽しめます。野菜は季節に合わせて旬の物をどうぞ。
- 菜の花保育園 栄養士 比嘉 彩華

山田幸治  
 (発達センターあつた指定寄付)

江、小原貴史、湧井規子  
 (西館建設指定寄付)

岡村恒義、加藤峯子、池田越子、神森啓介、そよ風職員一同、白石淑江、小原貴史、湧井規子

名古屋キリスト教社会館後援会、岡村恒義、加藤峯子、池田越子、神森啓介、そよ風職員一同、白石淑江、小原貴史、湧井規子

石村唯彦、神谷辰男、久保田啓、磯部モーターズ、磯部昌治、岩田悦、猪村正彦、猪村礼子、上田厚子、瀬戸聖書バプテスト教会、大迫より子、品川禮佑、田畑洋子、名古屋YWCA、田畑博、志村澄江、ほけつと河本、愛知国際病院事務部長高井望、愛知こどものとも社北原良男、千鳥学区地域福祉推進協議会、岩田悦

(東日本大震災支援活動の為の寄付)  
 安藤光枝、若園温子、上田厚子、柴田謙治、小林冴子、山田春枝、恒川修

(二般寄付)  
 (敬称略・順不同)

ご協力頂いております方々のご芳名を掲載し、報告とお礼とさせていただきます。

(ホーム社会館指定寄付)  
 在日米国実業家協会

(ほけつと指定寄付)  
 日本キリスト教団名古屋新生教会、愛知聖ルカ教会、NPO法人イエロー・エンジェル、日本基督教団金城教会社会福祉委員会、野島丈夫、加藤淳

(クリスマス献金)  
 岡村恒義、樋口真理、安藤光枝、若園温子、磯部モーターズ、磯部昌治、小宮一子、日本基督教団熱田教会めぐみ会、八事教会、新海英行、加藤峯子、田村富士雄、犬飼尚樹、岩田悦、活けるキリスト一教会、川口誠・川口京子、土屋倅子、日本キリスト教団半田教会、榎本令子、青木栄一、YMCAかみさわ保育園、日本キリスト教団豊田教会、上田厚子、星みどり、名古屋学院、日本基督教団御器所教会、日本基督教団春日井教会、日本キリスト教団刈谷教会、田畑洋子、広路教会、名古屋聖ステパノ教会、金城学院幼稚園、神戸一子

(以上 12/9/3/16現在)

防災一口メモ④ 最後に!



★日本では災害は忘れても忘れなくてもやって来ます。いつ発生しても、避難する時は緊急の判断なので、不自由な生活が待っています。被災者になることは誰にとっても不本意です。これまでの「普通の生活の有難さ」を知ることとなります。悔しい思いで落ち込みます。不安定な精神状態になります。だから支援が必要です。支援する人は、被災者を可哀そうだと思うより「お友達が困っている」から手を貸す、といった感覚が必要です。日頃から好かれている人は被災者になっても救いの手が届きやすいが、そうでない人は支援されにくい。介護施設に入っても同じです。日頃から好かれて、良いお友達と顔見知りも多く作っておけば、支援する側でもやり易いです。(終)



市民がつくる災害に強いまちづくりの集い代表  
 愛知県被災者支援センター事務局長  
 特定非営利活動法人レスキューストックヤード会員  
 瀧川 裕康

苦情申し出の窓口

苦情の申し出窓口は、各事業所掲示板等に掲示しています。苦情受付者は主任、解決者は事業所長が基本です。

法人への苦情は、  
 本部事務局  
**612-3370**  
 へお願いします。

また、法人職員ではなく、第三者の立場として苦情を受け、より良い解決へと導く立場の者として、第三者委員を選任しています。

第三者委員は、  
 仲田 伸輝 821-0570  
 小林 冴子 611-0401

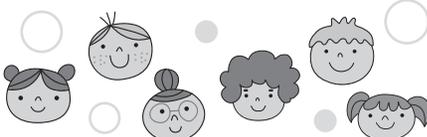
初代館長 小崎 忠雄様  
 ご逝去のお知らせ

伊勢湾台風キリスト教救援本部よりの要請に応じて、初代館長にご就任、1971年度末までお勤め頂き、名古屋キリスト教社会館の基礎を築いて下さいました小崎忠雄様が3月11日深夜に神様のもとに召されました。享年82歳でした。14日前夜式、15日告別式とも、所属の霊南坂教会においておこなわれ、しめやかかつ温かみのあるものでした。謹んで哀悼の意を申し上げますとともに、生前のお働きに心よりの感謝を申し上げます。

(法人事務局)

共同募金配分金を  
 頂きました。

発達センターちよだは、この度愛知県共同募金会を通じて、平成26年度CBCチャリティ募金「こどもにぴたっ」関連配分金を頂きました。この配分金で発達センターちよだの出入り口にあるカーゲート、および園庭内に入る門扉を新しくすることができました。古くなり、あちこち傷んでいたものを新しく、きれいなものにする事ができました。ありがとうございました。



編集後記

二〇一五年度が始まる。新年は冷たい空気の中で、「今年を思う」けれど、それは違う感情を抱く。空気が暖かいのに、「今年度を思う」気持ち少し張りつめた緊張感を持ち合わせている。日本国憲法、原典、沖縄基地問題…。平和を脅かす力が働いている。私たちが権利としての社会福祉を追求するために

は、その力に引き合い抗うための連帯や協同抜きには考えられない。社会館で働く者として肝に銘じたい。とはいえ、日々の実践の中では悲壮感を持たず、西館建設という夢に向かい、子どもたちや利用者の方々の多くの笑顔であふれる、二〇一五年度となるよう頑張りたい。

(A・S)